

# 【 第6回 東アジア選手権 】

2018年7月3日～7月8日 開催地:香港

## 試合結果報告

7 月 5 日 ( 木 )

JPN	VS	TPE
15	前半	15
11	後半	11
26	合計	26

### 個人得点

名前	得点	合計
1 石 濱 壘		0
2 佐 藤 陽 太		0
3 久 保 寺 步 夢		0
4 可 児 大 輝		0
6 窪 田 礼 央	3	3
7 安 平 光 佑	4	4
8 清 水 裕 翔	4	4
9 吉 田 守 一	5	5
11 藤 川 翔 大	3	3
12 矢 村 裕 斗		0
13 角 本 洵		0
14 山 口 直 輝		0
15 石 嶺 秀		0
16 大 禮 佑 介		0
18 梶 山 瑞 生	2	2
19 金 津 亜 門		0
25 蔦 谷 大 雅	5	5
	26	26

### 戦評

第3戦はフル代表選手を擁する台湾代表。個人能力に優れ、体格もあり、戦術レベルも高いチームである。特にWu(No.7)、Pan(No.18)は得点能力が高く、注意しなければならない選手である。

試合は日本ボールでスタートする。台湾のDFシフトは変則の2-4DF。日本は慌てることなく、センター安平のリードから直ぐさま対応し、自らのミドルシュートで得点する。直後に台湾OFでポストに落とされるも、GK石濱がファインセーブしてチームを鼓舞する。台湾はWu、Panを中心に多彩な攻撃を展開し、ロング・ポスト・サイドと的を絞らせず加点、日本は安平、清水の活躍で前半15分に7対7とする。その後も一進一退の攻防が続き、前半は両者譲らず15-15で折り返す。

後半出だしからの連続失点で7分には日本は16-20とリードを許す。梶山のミドルで返すものの、Wuの個人技、Panのロングを止められず、点差が縮めることができない。16分、日本は右の2枚目DFに山口、GKを矢村に変えて打開を図る。直後、台湾のノーマークをGK・矢村が2本連続でキープしてチームに勢いを与える。吉田、窪田、藤川の5連取で21分には23-22と勝ち越しに成功する。台湾もPanのロングで応戦、日本は負けじと窪田が豪快なロングを叩き込む。28分には26-26となり、その後はお互いに意地のDFで相手に得点を許さない。ラスト20秒、台湾のOFを凌いだ日本はタイムアウトを請求、勝ち越し点を狙うべく、OFの意思統一を図るとともに、悪くても同点で終わることを確認。最後はサイドから決勝点を狙うも惜しくも枠を捉えられず、タイムアップとなった。課題は残るが、4点差を追いついた事はチームとして成長を感じるゲームであった。

なお、身体を張ったDFと、ポストから5得点を挙げた吉田守一がベストプレイヤーに選ばれた。

報告記入者 :

**吉田耕平**